

おぶせまちづくりボイス MACHI VOICE

2008(平成20)年12月18日創刊
◎小布施まちづくり委員会

発行:小布施まちづくり委員会
会長:デイビッド・ヒルトン
事務局:小布施町役場企画政策課
定住交流係
編集:小布施まちづくり委員会
広報委員会

第8回 小布施まちづくり語らい座

過去と未来を繋ぐ宝く古文書の世界へ

講師 郷土史家 小林暢雄さん

令和2年12月12日(土)公民館講堂でまちづくり語らい座が開催されました。講師は郷土史家の小林暢雄さんです。新型コロナウイルス感染の広がりが心配される中、予防対策を行い多くの皆さんに越えたいいただきました。

小林さんが二十歳で家業を



継ぎ郷土史家を目指すきっかけとなったのは上高井郡誌に掲載された小布施尋常高等小学校長の執筆した虚構の歴史との出会い。誤った歴史記述により肩身の狭い思いをしている人々がいる事実を知ったことでした。「歴史を捏造する行為」は現に慎むべきという理念に基づいてその検証に

取り組み、郷土史家として歩んでこられました。龍雲寺住職から焼却する予定の襖を清酒2升と交換してもらい受け、自宅に作ったプールに浮かべると160点余の古文書が現れたことが古文書学習の大きな契機となりました。その後、発足した小布施町郷土史の会に26歳の和入会し、当時における最古の和入会資料を解説し、30

年を費やして和入の木を2本発見しました。また、60歳から大島の地域誌編纂に取り組み、平成29年には「大島四百年誌」が刊行されました。続いて古文書の解説から小布施の近世の村人についての解説がありました。古文書の中には村人を制約するものが多く、徳川幕府が村人に対し政令を提示した「御仕置五人組帳」などを実際の古文書の画像写真をもって紹介していただきました。

◎在々置目

(1615年 町宝指定から)

慶長15(1615)年、大島村が水内郡より高井郡内への移転に伴い、飯山藩主・堀直寄が村人に指図した「掟書」で公的な条例分として最も古い。農民が領主に果たす9条の内容から成っている。

◎御仕置五人組帳前書

(1830年 大島自治会所有から) 五人組とは近世における村

を形成する単位(五軒で一組)で連帯責任と互助の役割を負っていた。5人組の長を「伍長」と呼び、伍長の責任者を組頭と言った。各村には名主(庄屋)、組頭が置かれ村政を運営したが、近世後期には「百姓代」が置かれ、五人組長は名手が毎年三月に作成し一冊を支配者に提出していた。

◎五人組御仕置帳

(近世後期 町文書館所有から)

「これは禁止」との条文が3分の2を占めており、税の完済と夫役の完遂が最も多い。前書きでは「博奕・賭博」に関する条文があり、近世後期には貨幣経済が農村地域に浸透し、賭博が日常茶飯事に行われていた。

このように歴史を紐解く各自治会や個人所有の古文書は町内に恐らく一万点以上あるのではないかと推測されるそうです。住宅や土蔵の建て替えて古い記録が失われつつあり、町文書館設立の意義は大きいとのことでした。

古文書から深い歴史を知り、江戸時代における現在の小布施の村人の暮らしや社会情勢を読み解くことができ

る。これが郷土史家としての小林さんの「好奇心」「探求心」「学びの喜び」の醍醐味なのでしょう。

今年度の事業報告

安全を考える部会

- ・地域防災講座の開催
- ・住民防災講座の開催

環境を考える部会

- ・小学校4年生向け 土づくり丸ナス栽培 食育講座開催
- ・食育映画上映会 吉田俊道先生講演会開催(共育部会との共催)

交流を考える部会

- ・ZOOM会議の導入
- ・掲示板の設置に関する会議

共育を考える部会

- ・おぶせ口頭詩(子どものおぶせ)の収集
- ・食育映画上映会 吉田俊道先生講演会開催(環境部会との共催)
- ・乳幼児の脳科学パンフレット普及活動

福祉を考える部会

- ・おぶせ版「自分史・未来日記」の原稿作成・製本作業

議員のなり手不足を考える部会

- ・現在の選挙制度や今後の議会の在り方について学びながら、議員のなり手不足に向けて意見収集



**食育映画上映と講演会
を共育部会と共同開催**

環境を考える部会

環境部会では、11月1日に「食から健康と環境を考えよう」と題して、映画『いただきます』



ます2 (ここは、発酵の楽園) 上映 & 菌ちゃん先生こと吉田俊道氏(長崎県・菌ちゃんふぁーむ)の講演会を共育部会と共同開催しました。

吉田先生には生ごみリサイクルの土作り・食育で数年前もご指導いただいています。今回コロナ禍での開催になり、除菌やソーシャルディスタンスなど最善の策をとり無事に終わることができました。しかし、吉田先生より菌を排除するのではなく、自身身の免疫力を高めることが大事であるとお話がありました。決して難しいことではないと思います。自家菜園のものや栄養価の高い野菜が手

に入れば良いのですが、小魚などからミネラルを摂り、よく咀嚼することだけでも変わるものです。本来日本人が食べていた和食を意識して腸内環境をととのえていきましよう。映画には吉田先生の農園も登場し、微生物たつぷりの畑や無農薬でも虫が寄らざるらしい野菜たちも登場しておりました。

この内容は子供たちへの食育にも通じることもあり、今回、共育部会と力を合わせて開催できたことも、良かった点でありました。今後も部会間で意見を交換して、協力して様々な活動をしていきたいと考えております。4月より4年生になる皆さん、小布施丸ナスと一緒に育てましよう。

**地域防災講座開催
住民防災講座**

安全を考える部会

堀込明紀講師(日本赤十字奉仕団研修推進委員)は満を持しての登場であった。冒頭

で、自然災害にはどんなものがあるか?との問いかけに對しては、「命の大切さ」を改めて教えていただくこともできた。「災害から自分、家族、隣人のいのちを未来につなげるために何をすべきかについて」も学ぶことができた。

柳見沢宏さん(長沼地区復興対策企画委員長)との対談の詳細はYouTubeに掲載したので譲るとするが、一昨年実際に豊野地区で被災された方の体験談であり、迫力に満ちたお話の数々は出席者全員の脳裏に深く刻みこまれた。これからの最大の課題は長沼の復興をどうするかであり、そのひとつの方法として、長沼住宅を建設することも考えた



いこのことであった。最後に頼りになるのは「自治会」であり、これを支える「コミュニティ」である、との一言には体験者のみが発しうる重みがあつた。



私のまちづくり委員会
→ 部員リレー →

交流部会 松島莉央さん

「みなさんが楽しく集まって新しい出会いや更なる交流を深めてもらえるような企画を考えています。」

編集後記

2021年度、小布施まちづくり委員会は14年目を迎えます。コロナウイルスは依然として私たちが脅かしていますが、希望を捨てることはできません。

私たちは持続可能な未来のために行動を続けなければなりません。

天気のように雨雲は去り太陽は再び現れます。

素晴らしい2021年度の小布施町を共に創り上げましょう!

(ティビッド・ヒルトン)